PC 技術のアーカイブス化に向けて

前　田　晴　人*

もう 40 年近く前の話になるが，社会人になった当初は PC 工学会の会誌である「プレストレストコンクリート」が届くのを楽しみに待っていた記憶がある。毎号，首を長くして待っていたので，結構予定日になっても届かないことが多かったことまで記憶している。当時は大先生の寄稿が多く，原稿取りに苦労があったことは想像に難くない。今は関係各位のご努力により，予定どおりに発刊されているような印象がある。内容は，最新の設計理論や PC 構造物の設計・施工に関する記事が盛りだくさんであり，記事になった内容がその後に示方書やマニュアル等に取り入れられていく，というような流れがあった。つまるところ「プレストレストコンクリート」は PC に関する最良の情報誌であり，これさえ読んでいれば，最先端の PC 技術に触れ続けていられたわけである。

その「プレストレストコンクリート」であるが，今では第 1 巻からのバックナンバーを PC 工学会のホームページから簡単に閲覧することができる。ホームページの「会誌プレストレストコンクリート」から「会誌閲覧（PDF）」に入ると，昭和 34 年の第 1 巻～平成 25 年の第 55 巻までの記事を PDF 形式で読むことができる。便利になったものである。保管場所もとらない。この検索システムも，ある意味では標題に用いた「PC 技術のアーカイブス」ということができる。

アーカイブスといえば，NHK アーカイブスをすぐに連想するが，それもそのはず。アーカイブスは NHK によってつくられた造語であり，重要記録を保存・活用し未来に伝達することを意味するアーカイブの複数形アーカイブズを，末尾の濁音続きが発音しにくいことから考えられた言葉であるとのこと。

PC 工学会は，「わが国 PC 技術者の知識を結集し，組織を以てプレストレストコンクリート国際連盟（FIP，現 *fib*）に日本を代表して加盟し，国際交流による PC の普及と振興を図る」目的で昭和 33 年に設立され，今年で 60 年目を迎える。理事会の開催も昨年の 12 月理事会で 600 回を数えた。時代は右肩上がりの建設の時代から維持管理中心の時代へと移り，団塊の世代の引退，若い世代の建設産業離れも相まって，PC 分野においては，いかに PC 技術の継承を図っていくかが重要な課題の一つとなっている。このような時代背景のなか，3 月に行われた PC 工学会第 602 回理事会において，PC アーカイブス委員会（仮称，委員長：手塚正道 PC 工学会副会長）の設置が決定された。この委員会設置趣意書（案）には趣旨が以下のように示されている。「わが国に PC 技術が導入されて 60 数年が経つ現在，過去の貴重な資料をアーカイブスとして収集整理し保存していくことは，PC 技術の継承の観点からきわめて重要である。……（途中省略）……。PC 技術継承のため，とくに古い資料の存在を知る方々も高齢化しており，早期に取り組むべき課題と判断するものである。」

アーカイブス化しておきたい PC 技術とは何であろうか，私なりに考えてみた。① 設計理論の原点となる記事・文献：原点を理解していないと応用が効かない。② 本邦初の橋梁形式の設計計算書・設計図・文献・苦労話：初めての課題を克服するために，考えられるかぎりの検討を真摯に行っている場合が多い。文献に記されていないコツを学ぶことができる。③ 施工段階の映像：目で見て施工計画のイメージを養うことができる，等々。日本に PC 技術が導入されてから現在までの歴史の 3 分の 2 を一緒に歩んできた私としては，積極的にこの事業に参画し，PC 技術のアーカイブスを後進に残したいと考えている。

* *Haruhito MAEDA*：㈱日本構造橋梁研究所 取締役専務執行役員
本工学会理事